

ちば国際コンベンションビューロー第3次中期計画（要約版）

平成22年度～平成24年度

■ 計画策定の趣旨

ベルリンの壁の崩壊と時を同じくして設立した当財団も昨年20周年を迎えました。世界の社会情勢の変化に伴い、国内の政治、経済も大きく変わってきている中であって、MICE（広義のコンベンション）推進事業をより効果的に実施する必要があります。また、国際交流推進・協力事業から多文化共生事業への転換を図る必要があるなど、当財団を巡る環境は大きく変化してきています。

一方、国では公益法人制度改革が進み、県・市でも、行政改革による外郭団体の自立型経営への見直しが行われています。

このような社会状況の中で、地域経済の活性化、文化の向上及び国際相互理解の増進に貢献していくため、当財団の今後のあり方と基本的方向を示した「ちば国際コンベンションビューロー第3次中期計画」を策定しました。

■ 今後のCCB-ICのあり方

1 チーム千葉による MICE 誘致・支援の実施

(1) コンベンション推進から MICE 推進への転換と目標数値の設定

コンベンションから MICE マーケットに誘致対象を転換し、さらなる地域活性化を推進します。

また、地域の知名度向上に寄与し、経済効果も高い、JNTO 基準による国際会議の誘致ベースでの目標数値を設定し、更なる国際会議の誘致に努めます。

	国際会議誘致件数	国際会議開催件数
2012年度	39件	36件
2009年度	26件	25件
2007年度	25件	24件

(2) 誘致拡大のための推進体制の強化

国・県・市町村、関係団体との連携を強化し、特に学会系、大型国際会議の誘致に努めます。

2 国際交流・国際協力の推進と多文化共生社会づくり

(1) 中核的組織としての機能の強化

外国人に相談業務や、ホームページ等での情報提供に努めます。また、市町村国際交流協会、

各市町村、大学などと問題意識の共有や情報交換を行う場を設け、関係団体の連携の強化を進めます。

(2) 多文化共生時代のネットワークづくり

各種講座等を開催し、多文化共生時代における日本人の意識形成や外国人住民の地域社会への参画を促します。

多文化共生社会の推進役となる、ボランティアの養成やスキルアップを図ります。財団会員、ボランティア、関係団体のネットワークの形成・連携強化を図ります。

(参考) 各種講座受講者数

	国際理解促進のための講座	ボランティア向けの講座
2012 年度目標	3 講座、350 人	3 講座、150 人
2009 年度	3 講座、162 人	3 講座、128 人

3 「魅力ある千葉」を国内外へ発信

- (1) 千葉県の有する魅力を活用した事業展開
- (2) 海外向け広報活動の拡充
- (3) 会員を中心とした「チーム千葉」の活動強化

4 大学等との連携による事業強化

- (1) 大学等との連携の強化
- (2) 多文化共生社会への理解促進
- (3) 県内研究施設・産業関連施設等とのネットワークの強化
- (4) 観光・物産協会等と連携した新しいビジネスモデルの創設
- (5) 県内大学及び研究機関と連携したアカデミアネットワークの設立

5 公益財団法人への移行と自立型経営への転換

- (1) 平成 24 年度を目途に公益財団法人へ移行
- (2) 組織体制の整備
- (3) 自主財源確保の強化
- (4) 人材育成
- (5) 経費削減
- (6) 関係団体等との統合についての方向性を決定

* MICE とは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、イベント、展示会・見本市(Event/Exhibition)のことで、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。